

創立者出身地への学生派遣プログラムについて

社会連携機構長・副学長
藤江昌嗣

明治大学は133年前、1881（明治14）年に岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操という3人の青年により設立されました。2010年10月に創設された社会連携機構は、福宮賢一学長が掲げる三つの柱、すなわち、教育、研究に並ぶ第三の柱として、大学が持つ様々な知的資産を社会に開放、発信するとともに、教職員や学生が地域に入ることを通じた社会貢献を積極的に推進してきています。その担い手である社会連携機構は、そのもとにある地域連携推進センターとリバティアカデミーが、それぞれ地域社会と連携した地域活性化等の事業と生涯学習活動を展開してきています。

また、本機構は、2012年3月31日には、文部科学省との共催で、私学として最初の「熟議 in 2012」を駿河台キャンパスで開催しました。

また、地域連携推進センターは、明治大学創立者3人の出身地である山形県天童市、福井県鯖江市、鳥取県と連携協力協定を締結し、校友会、父母会等と連携しさまざまな連携事業を展開してきています。

例えば、天童市の場合、2002年10月に宮城浩蔵の胸像が天童市立旧東村山郡役所資料館に建立され、翌年には宮城浩蔵賞が制定され、天童市内の中学校の優秀生徒が褒賞されています。また、2009年11月には明治大学・天童市連携講座「私の一歩が地域を変える」を開講し、明治大学と天童市との交流が始まり、2010年には同連携講座「てんどう笑顔塾」が開講し、2010年12月に「山形県天童市と明治大学との連携協力に関する協定書」を締結しました。

また、鯖江市の場合、矢代操に関する歴史編纂分野での調査や講演会の実施、「まなべの館」敷地の矢代操胸像建立（2003年）、2010年からの各種連携講座の開講や就職キャリア支援プログラムとして明大生による「鯖江ブランド創造プログラム」を開始などに取り組んできました。2011年11月には「鯖江市と明治大学との連携協力に関する協定書」を締結しました。また、2012年には矢代操の旧宅地を明治大学が購入し、その活用の段階に入りました。

鳥取県とは、明治法律学校初代校長も務めた岸本辰雄を輩出したことから、2005年度から、駿河台キャンパスで「鳥取県・明治大学連携講座」を開講し、2009年3月に「明治大学・鳥取大学・鳥取県との連携協力に関する協定書」を締結しました。

こうしたさまざまな連携事業の実績を踏まえ、2012年度に続き2013年度にも、3人の創立者出身地へ学生を派遣し、学生と地域の人々との交流を通じた「地域活性化への提言」を行うプログラムを実施しました。今回の派遣プログラムには上記の「熟議」のノウハウも活かされました。

本報告書はこのプログラムの準備段階から、3地域への訪問、中間発表、成果報告会、そして2013年11月16日に開催されたプログラム総括のための「熟議FINAL」までに至る本プログラム全体を包括した報告書です。本プログラムの内容が生き生きと伝わることを願っております。今後は3地域間の連携の一層の推進という課題も生まれてきています。

3地域での本プログラムの実施に際しては、多くの方々にお世話になりました。まさに連携なくして、このプログラムの実施はありえませんでした。3地域の首長である平井伸治鳥取県知事、山本信治天童市長、牧野百男鯖江市長はじめ関係各位、また、地元の皆様方、そして明治大学校友会、父母会の皆様方に御尽力を頂いたことに深く感謝を申し上げます。

また、本プログラムの実施にあたり常に御配慮頂いた福宮賢一学長はじめ教学関係各位、また、日高憲三理事長、三木一郎学務担当理事はじめ法人関係各位、社会連携機構スタッフの教職員の皆様に心より感謝を申し上げます。

そして、明治大学の「始まりの一步の地」である創立者の3地域を訪問し、2012年度の「第一歩」から、より深い3地域との連携へ大きく踏み出してくれ、明治大学の学生らしい情熱と頑張りで、最後まで、プログラムをやり遂げた参加学生諸君に深く感謝したいと思います。

2014年1月吉日